

3学年だより

NO 581

飛翔

令和3年1月29日



小田原市立城山中学校
学年主任 水野喜代治

公立高校の志願倍率と2次募集 (公立高校選抜の解説NO1)

来週の火曜日(2月2日)に公立高校の志願者数の状況が発表されます。各公立高校の募集定員に対して、どれだけの生徒が志願したかがわかります。募集定員に対しての志願者数の割合を志願倍率と言います。志願者数÷募集定員で出される数字です。志願倍率を下に説明します。

A高校 募集定員=100人 志願者数100人
計算 $100 \text{ (志願者数)} \div 100 \text{ (募集定員)} = 1$
上の計算から、A高校の倍率は1となります。倍率1は募集定員と志願者数が同じということを意味しています。この場合は、全員合格となります。

B高校 募集定員=100人 志願者数200人
計算 $200 \text{ (志願者数)} \div 100 \text{ (募集定員)} = 2$
上の計算から、A高校の倍率は2となります。倍率2は募集定員に対して志願者数が2倍になっていることを意味しています。この場合は、2人のうち1人の割合で合格する状況の意味しています。

C高校 募集定員=100人 志願者数50人
計算 $50 \text{ (志願者数)} \div 100 \text{ (募集定員)} = 0.5$
上の計算から、A高校の倍率は0.5となります。倍率0.5は募集定員に対して志願者数が0.5倍になっていることを意味しています。つまり、募集定員の半分しか志願者がいない状況の意味します。いわゆる定員割れです。このような状況になると、後日、2次募集を行います。

二次募集の志願資格

定員割れが起きた高等学校は、原則、2次募集を行います。この2次募集に志願出来る条件は、まだどこの学校も合格したことのないこととなっています。次のような例は認められません。

Aさんは、山北高校が第一志望で、相洋高校を併願して受検しました。相洋高校は、合格して、山北高校も合格しました。Aさんは、相洋高校は併願校なので、入学の手続きはしないで、合格を辞退しました。そして、山北高校に進学しようとしたのですが、西湘高校が定員割れをして、2次募集をすることが分かりました。Aさんは、山北高校の合格を辞退して、西湘高校の2次募集に志願することにしました。

上のケースの場合は、西湘高校の2次募集をする前に、相洋高校と山北高校の合格通知をAさんは、受け取っているのです。辞退しても、合格を経験した生徒となるので志願はできません。2次募集に志願出来る生徒は、どこの高校にも合格していない生徒となりますので、限られた人の志願となります。

また、志願倍率が高いので、志願先を変更することもできます。これを志願変更と言います。このことについては、月曜日の飛翔で説明したいと思います。